

目的 女子高校生の夏制服であるブラウスは着用時の季節が最も多汗時で着用期間は短かくても生地への影響は大きい。生地への影響は着用時の身体からの分泌物・洗濯・乾燥による繊維の疲労劣化が考えられる。疲労劣化は個々の人々の着用状態、洗濯、乾燥等の取り扱い方によつて一定しない。そのためこの種の疲労特性を扱った報告は極めて少ない。したがつて経時変化調査をアンケート方式で行ない、合せて機能性への影響を把握するために着用済み制服を収集し、着用部位の劣化状態について主成分分析を中心に検討した。

方法 制服の新品・1年・2年・3年・6年間着用済みのエステル65⁵綿35%混紡織物のブラウス48点を供試布とした。供試布の着用部位である、前身頃・後身頃・衿・袖・裾について、通気性・引裂強度・平面摩耗・伸長貯蔵弾性率・吸水性等について試みた。

結果 アンケート調査から制服の所持枚数は2枚が最も多く、調査対象者の54%を占めた。制服の着用感覚では素材は丈夫で、洗濯も簡単であること、取り扱いかい易さを強調しているが反面着用による生地の黄変や発汗の激しさに対して吸汗が悪いと不満を持っている。着用による経時変化については主成分分析による評価はろびに測定結果から、着用部位の中では袖の疲労劣化が大きい。また各部位ともに着用年次順の劣化が明確となっている。